

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署	-
--------	---

1 石巻エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	豊かな地域資源を活かした交流人口の拡大、移住・定住の促進を図り地域コミュニティの存続に努めます。(SDGs移住定住推進課)	移住相談窓口の設置やお試し移住体験等の事業を実施したほか、住宅の取得等に伴う支援を行い、移住を検討しやすい環境を整備した。また、移住後のフォローアップや市内に居住し奨学金を返還している方に対して返還金の一部を支援し、定住促進を図った。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、石巻地区の回答を前回調査(令和元年度)と比較すると、「市外からの来訪者・移住希望者の受入環境の整備」の満足度が低く、重要度が高くなっている。 移住定住推進事業を活用して石巻地区へ移住した人数は、令和3年度54人、令和4年度109人、令和5年度103人で、市全体では、令和4年度、令和5年度とも目標人数150人を達成していることから、B評価とした。	
②	空き店舗の有効活用などによる中心市街地の活性化を図ります。(商工課)	第3期石巻市中心市街地活性化基本計画に基づき、各種事業に取り組んできた。主な取組事業は、中心市街地内の空き地・空き店舗を事業のために購入または賃貸する中小企業や個人事業主を対象に、「空き地・空き店舗活用事業助成金」を交付することで、中心市街地への新たな出店を促進してきた。	B	令和3年度から実施している「空き地・空き店舗活用事業助成金」の令和7年1月末までの活用実績は累計16件であり、空き店舗を有効活用した中心市街地への新たな出店を促進することができたことから、B評価としている。	
③	地域包括ケアを推進し、安心して暮らせる地域づくりを進めます。(保健福祉総務課)	令和4年度策定した第4期地域福祉計画に基づき、地域互助活動促進事業や多職種連携会議などの事業を実施してきた。主な取組として、地域互助活動促進事業において、地域で活動する市民主体の団体に助成金を交付し、地域での助け合いの強化を図った。	B	満足度調査においては、令和元年度より、満足度が低く、重要度は上昇の傾向にある。 地域互助活動促進事業助成金を利用する市民団体は、令和元年度10件に対し、令和6年度は56件と増加しており、地域での支え合う体制強化が図られた。しかし、急速な少子高齢化により、助け合いを求める市民が増え、満足度は低下していると考える。よって、B評価としている。	
④	雨水排水施設を早急に整備し、冠水対策を推進することにより安全なまちづくりを推進します。(下水道建設課)	平成26年度に策定した石巻市雨水排水基本計画に基づく次の事業 ・東日本大震災により被災したポンプ場等の雨水排水施設の災害復旧事業 ・東日本大震災による広域的な地盤沈下に対応するための雨水排水施設を整備する復興事業	A	想定外の土質の変化や新型コロナウイルス感染症の影響により工程が遅れた箇所があったが、令和4年度までに災害復旧工事が完了したことと、復興事業として整備を進めてきた雨水排水ポンプ場11施設が全て完成したことからA評価とした。	雨水排水施設を早急に整備し、冠水対策を推進することにより ↓ 計画降雨に対応する雨水排水施設の能力確保を図ることにより

凡例

- A: 達成
- B: 概ね達成
- C: 未達成
- D: 未実施

⑤	漁獲高の向上、担い手の確保を図り、基幹産業である水産業の活性化を図るとともに、関連施設について整備を推進する必要があります。 (水産課)	漁獲高の向上については、環境変化による水揚量が減少していく中、他の産地との競争に打ち勝つため、石巻市漁船誘致及び原魚等確保推進委員会と協同し、水産業界特有の漁船誘致手法の継続に努めた。 担い手の確保については、全国的に漁業就業者数が減少する中、担い手育成総合支援事業による漁業体験や短期研修、シェアハウスの設置等新規就業者の確保・育成に努めた。 また、水産業の活性化を図るため、石巻食品輸出振興協議会による共同輸出に向けた体制強化やGFPグローバル産地づくり推進事業によるアメリカ輸出に向けた取り組みを実施し販路拡大に繋がっている。 関連施設の整備については、本市漁港施設の長寿命化を図るため、機能保全計画に基づく工事を実施し、水産業の就労環境の改善を図った。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、石巻地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、満足度は低くなっているが、地球温暖化等による海水温の上昇等により、全国的に水産業界が大きな影響を受けている中、全国主要漁港取扱高の過去5年間の漁港順位において、数量・金額共に上位を維持している状況にあることから、B評価としている	
⑥	企業誘致を推進し、地元雇用の創出及び地域経済の活性化を図ります。(産業推進課)	企業立地意向調査（全国2,500社）におけるアンケート調査や積極的な企業訪問、宮城県企業立地セミナーへの参加などにより、本市の設備投資環境（公募中の用地等）や助成制度などのPRにより、立地の促進を図った。	B	令和6年度に実施した市民満足度調査における企業立地関連について前回調査（令和元年度）と比較すると、重要度が高くなっている一方満足度が低下する結果となった。 市民生活に直結するような小売業や飲食サービス業ではなく、製造業や建設業、運輸業などの立地が中心であったことから、市民感覚として企業誘致の実感が湧きにくかったことが満足度の低下として表れたのではないかと推察されるが、令和3年度から令和6年1月末時点までで延べ381件の企業訪問を実施し、石巻地区においては26件の立地、88名の雇用創出効果があり、一定の実績はあったと思量されることから評価をBとした。	
⑦	豊かな地域資源を活用した観光事業を推進し、交流人口の増加による地域の活性化を推進します。(観光政策課)	豊かな地域資源を活用した情報発信により観光誘客を推進し、観光交流人口の増加による地域の活性化を図った。	B	観光客入込数について、コロナ禍での一時的な落ち込みはあったものの、令和5年度は493万人を超えており、増加傾向にある。一方満足度調査を前回調査（令和元年度）と比較すると、若干低下が見られることからB評価としている。	交流人口→観光交流人口

■その他（新たな施策展開について）

創造的な漁業・養殖生産体制の確立が期待される陸上養殖の普及促進を図る。（水産課）

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署	河北総合支所 地域振興課
--------	--------------

2 河北エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	既存の住宅地や新たに整備された復興団地ともに地域住民の交流や地域活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図ります。	新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった年度もあったが、河北地区において、「サマーフェスタ・イン・かほく」、「フェスティバル・イン・かほく」等の各種イベント事業を開催し、地域住民の交流や地域活動を支援することで地域コミュニティの活性化に努めた。	C	地域住民の交流を図るため、河北地区において実施している「サマーフェスタ・イン・かほく」を開催した。同来客数は新型コロナ感染症の流行前の令和元年度で約9,500人、令和5年度は約9,000人であった。(令和6年度は台風のため延期となり花火大会のみ開催し約1,500人)、「フェスティバル・イン・かほく」では令和元年度は台風のため中止、令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、令和6年度の来客者は約5,000人となり、新型コロナウイルス感染症の流行前と同程度であり大きな変化はなかった。また、令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査(令和元年度と比較すると「コミュニティ活動の充実」の満足度が低く、重要度が高くなっており、ニーズが増していることから、C評価としている。	「既存の住宅地や新たに整備された復興団地ともに」を削除
②	医療と介護の連携推進、保育や子育て支援における安全安心など、様々な課題に総合かつ包括的な支援が行える体制の強化に努めます。また、地域住民の自助・互助による健康づくりや介護予防への取組、身近な地域における支え合いの取組を推進します。	各種健(検)診、相談等の実施と事後指導に積極的に取り組み、住民自ら健康づくりに取り組めるよう医療機関、地域包括支援センター等連携して支援した。乳幼児健診、訪問等において子育て期に切れ目のない、安全安心して過ごせるために子育て支援センターや保育所等関係機関と連携した支援に努めた。地域の自主的サロン活動等からの依頼に積極的に応じ、またこちらからも出向いて健康づくりの推進と介護予防に努めた。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査と比較すると、子育て支援関連の満足度が高くなっている。地域包括ケアの満足度は前回同様の数値になっている。健康、福祉分野では多くの設問で前回よりも満足度が高い結果となっていることから、B評価としている。	
③	「河北総合センター(ビッグバン)」や「追波川河川運動公園」などの文化・スポーツ施設の利活用促進を図り、交流活動やスポーツを通じた関係人口の拡大や住民の健康の保持増進を図ります。	三陸道河北インターチェンジに近いという地の利を活かし、様々な大会の誘致を行い、各種スポーツ団体や文化協会をはじめとする芸術・文化団体と連携し、交流人口の拡大と利活用促進を図った。	A	河北総合センター及び追波川河川運動公園の利用者は、近年大幅な増加傾向にあり、市外からの利用も多く交流人口の増加につながった。また、令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査(令和元年度)と比較すると、スポーツ・レクリエーションができる機会についての満足度が上昇しており、一定の効果が表れているものと考えられるため、A評価としている。	
④	身近な生活道路を整備するとともに地域性を考慮した公共交通体系を構築し、市民生活や経済活動の利便性向上と地域の活性化を図ります。	河北地区において、市道山崎馬鞍線、市道単独線、市道三輪田線の道路整備事業を進めている。また、住民バスについては、利便性向上と地域の活性化を図るため、河北地区住民バス運行協議会において令和7年度以降の再編・見直しを行った。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査(令和元年度と比較すると「公共交通ネットワークの整備」の満足度が低く、重要度が高くなっている一方、「幹線道路・生活道路など道路の整備」の満足度及び重要度が高くなっており、ともに重要視されている現状があることから、B評価としている。	

⑤	地震や水害などの自然災害への対策を推進し、関係機関との連携の強化や自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。	河北地区内の防災体制の促進のため、自主防災組織の設立を推進した。 また、市総合防災訓練においては、地域の各自主防災組織における防災訓練の実施について促進を図った。	C	自主防災組織の設立を推進した結果、組織率は令和元年度の37.7%に対し、令和7年2月現在52.5%となり微増となった。 また、令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査（令和元年度と比較すると「地震や水害等に対する防災対策の充実」の満足度が低下し、重要度が増していることから、C評価としている。	
⑥	農林漁業の安定した経営体の育成と担い手の確保を図り、有害鳥獣による被害対策や環境への配慮に努め、地域産業の振興を図ります。	市の基本構想に示された農業経営の目標に向けて、経営体の育成（計画の更新・変更）及び新規担い手確保に努めた。 また、宮城県猟友会河北支部と連携し有害鳥獣による農作物等への被害低減を図った。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査（令和元年度と比較すると「農林畜産業の振興」の満足度及び重要度が高くなり、重要視されている現状があることから、B評価としている。	
⑦	非可住地域について、土地の有効活用を図るために、農用地などによる利活用を推進し、地域の活性化に努めます。	令和4年度に低平地整備事業が完了し、長面地区において市有地と民有地を併せた一体的な土地利用を推進するため、土地利用者の募集を図っている。	C	令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査（令和元年度と比較すると「街並みや景観の整備」の満足度及び重要度が低くなっている。長面地区の低平地の利活用について情報提供を行っているが、具体的な利活用が無いことからC評価としている。	
⑧	道の駅「上品の郷」を経済・情報・交流の場とし、旧来の商店街と連携して地域のにぎわいを創出し、地域振興と観光振興を図ります。	地元商店街の特産品を道の駅「上品の郷」が販売することなどにより連携を図った。 また、河北地区で開催する、「フェスティバル・イン・かほく」では、道の駅「上品の郷」も出店し、地域のにぎわいを創出し地域振興と観光振興を図った。	C	道の駅「上品の郷」の来客者（直売所レジ通過者と温泉保養施設利用者の合計）は、令和元年度は約77万7千人、令和5年度の約62万7千人と地域のにぎわいの場となっている。 令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査（令和元年度と比較すると「観光の振興」の満足度及び重要度が低くなっており維持・改善が必要であることから、C評価としている。	「旧来の商店街と連携して」を削除
⑨	「皿貝法印神楽」をはじめとする各地域に伝わる「神楽」などの伝統芸能を地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。	かほく文化祭や石巻地方神楽大会を毎年度実施し、伝統芸能の発表の機会を提供することで、各団体の活性化に努めている。	B	皿貝法印神楽保存会は、令和6年度に文化庁・地域功労者表彰を受賞し、長年にわたり地域の神楽文化の継承活動に尽力している点が評価された。また、令和6年度に実施した満足度調査において、河北地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「地域の文化・伝統芸能の継承」の満足度と重要度が高くなっている。 保存会には現在20～70代15人が所属し、伝承活動に努めていることから、B評価としている。	

■その他（新たな施策展開について）

--

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署	雄勝総合支所 地域振興課
--------	--------------

3 雄勝エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	リアス式海岸特有の雄大な海岸景観や山間部の豊かな自然環境、豊富な特産品など豊かな地域資源を活かした交流人口の拡大、情報発信や資源の有効活用による移住・定住の促進を図り地域コミュニティの存続に努めます。	・環境省等とみちのく潮風トレイル事業を推進したほか、関係団体と連携し、地域の特産品であるホタテ、ウニ等をメインとした海鮮まつりを開催するなど、交流人口の拡大に努めた。 ・住民が主体となり地域課題の解決や地域づくりに取り組む地域自治組織として、新たに「おがつ100年会議」が設立され、地域コミュニティの維持・活性化につながった。	B	長年の懸案であった住民主体の地域自治組織が設立されたほか、海鮮まつりについては、来訪者が令和元年度の1,600人に対し、令和6年度が11,000人となっており、交流人口の拡大が図られていることから、B評価としている。	「みちのく潮風トレイル、海岸線の美術館、大須崎灯台」などの観光資源を追加
②	市内他地区へのアクセスがしやすい、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。	・住民バス（雄勝線）の起点を上品の郷から鹿又駅に変更したほか、一部の便をイオンモールまで延伸したことにより、鉄道やバスとの乗継が容易になり、アクセス向上につながった。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「公共交通ネットワークの整備」についての満足度が上昇していることや、雄勝線の起点を延伸したことにより利用者が増加していることから、B評価としている。	
③	住民の生活や交流人口の周遊に関わる道路網の整備促進を関係機関に働きかけ、住民の利便性向上や地域の活性化を図ります。	・県道釜谷大須雄勝線の「名振尾ノ崎線の整備」と「立浜大須間の狭隘部分の改良」の早期実現に向け、石巻市雄勝町国道県道整備促進期成同盟会の活動等を通して県への要望を行っており、立浜大須間の一部改良工事が施工されるなど住民の利便性向上等につながった。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「幹線道路・生活道路など道路の整備」についての満足度が上昇していることや、道路改良が一部施工されていることから、B評価としている。	
④	地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。	・旧大須小学校に昼夜を問わず離発着が可能な夜間ヘリポート場を整備した。 ・避難所の整備とともに、総合防災訓練等を通じて自主防災組織の育成に努めたことにより、防災体制の整備促進を図った。	B	令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「地震や水害等に対する防災対策の充実」と「防災訓練の実施や防災知識の普及など地域防災力の向上」についての満足度が上昇していることのほか、自主防災組織の組織率が94.1%（16/17地区）であることから、B評価としている。	
⑤	地域の医療ニーズに対し柔軟に対応できる仕組の構築や共に支え合う仕組づくりを推進します。	市立病院と連携し、医師の確保に努めたほか、毎月ささえあいミーティング（多職種による個別ケース会議）を実施し、情報の共有を図った。	C	令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「医療体制の充実」についての満足度が低く、重要度も高くなっていることや、医師が常駐していない日を解消できていないことから、C判定とした。	「高齢者・障害者・子どもや子育て世代などすべての人が健康で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・福祉の関係機関と連携し」を「構築や」のあとに追加

⑥	豊かな森と海の恵みに育まれたホタテ、岩ガキなど新鮮な地場産品の地域ブランドの確立や高付加価値化を図り、地域基幹産業である水産業の振興や水産業の担い手確保に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・海鮮まつり等のイベントを開催したほか、機会を捉え、全国各地で行われるイベントに出店するなど、地場産品のPRを図った。 ・県事業「みやぎ漁師カレッジ」の担い手候補者に対し、住家の斡旋等を行い継続就労につなげた。 ・漁協及びフィッシャーマンジャパン等関係機関と連携し、担い手に対する側面からの支援に努めた。 	B	<p>令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「水産業の振興」「地域資源のブランド化」についての満足度が上昇している。</p> <p>地場環境の変化による水産物の減少に歯止めが効かず、地域基幹産業としては低迷時期になっているが、担い手3名が正組合員や准組合員となり、うち2名が漁業権を取得するなど、いずれも漁業での生計を立てることができおり、担い手の確保につながっていることから、B評価としている。</p>	
⑦	持続的に自然資源を活用できるよう、有害鳥獣対策や自然環境の保全活動などを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣対策としての猟友会によるシカの駆除等があまり実施できておらず、農産物や樹木などの被害低減や交通事故の減少等につなげられなかった。 	C	<p>令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「森林や河川、海などの自然環境の保全・活用」についての満足度は上昇しているが、有害鳥獣による被害被害を低減できていないことから、C評価としている。</p>	「有害鳥獣対策を実施し、農産物や樹木等の被害低減に努めるとともに」に修正
⑧	古くからの伝統を誇る「雄勝石」などを地域資源として連携しながら活用し、地域観光の活性化を図るとともに、長い歴史を持つ「雄勝硯」や天然スレートなどの雄勝石産産を支える担い手の育成・保護育成し、貴重な地域資源として活用を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・雄勝硯伝統産業会館を設置し、雄勝石や硯に関する展示等を行いながら地域観光の活性化に努めた。 ・雄勝硯生産販売協同組合への補助金の交付や県との事業連携を通じ、ワークショップや大学生等を対象にしたインターンシップ事業等を行い、担い手の育成に努めた。 	B	<p>令和6年度に実施した満足度調査において、雄勝地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「観光の振興」についての満足度が上昇していることや、担い手の面については、インターンシップ事業等の直接効果ではないものの、若手工人の新規加入や独立などがあり、一定程度の達成ができたと考えられることから、B評価としている。</p>	「担い手の育成・保護育成し」を「担い手を確保し、育成することで」に修正
⑨	「雄勝法印神楽」や名振の「おめつき」「伊達の黒船太鼓」などの伝統芸能を継承するための活動を支援するとともに、地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において神楽や太鼓を披露する場を設けるとともに、雄勝小中学生に対し神楽の演技や太鼓の演奏指導を行っており、伝統文化の保存伝承に努めた。 ・宮城県指定無形民俗文化財の「おめつき」については、人口減少と後継者不足のため神事の実施となっており、祭りの継承が難しくなっている。 	B	<p>「雄勝法印神楽」については、20代から80代までの会員により、令和元年度の9回に対し令和6年度は10回の上演を行っており、また「伊達の黒船太鼓」については、10代から60代までの会員により、令和元年度の29回に対し令和6年度は22回の演奏活動を行っている。</p> <p>いずれの団体もコロナ禍前の活動水準に戻っており、幅広い年齢層のもとで安定した活動ができていることから、B評価としている。</p>	

■その他（新たな施策展開について）

・雄勝地域拠点エリアである道の駅「硯上の里おがつ」を経済・情報・交流の中心とし、地域のにぎわいを創出することで地域振興と観光振興を図ります。

・雄勝ガーデンパーク推進事業をはじめとした移転元地等利活用推進事業として、市民公益活動団体や地区会と連携し、災害危険区域内の低平地を活用した北限のオリーブやサクラ等の植樹、農業利用による緑化を推進するとともに、ワインづくりによる交流人口の拡大を図ります。

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署	河南総合支所 地域振興課
--------	--------------

4 河南エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	「遊楽館」「かなんパークゴルフ場」「旭山」や「旭山農業体験実習館(コロボックルハウス)」などについて、市内だけではなく、市外からの利用者が増加するよう、施設のメリットを広くPRし、多くの人々との交流の活性化や交流人口の増加を図るとともに、市民のニーズにあった運営に取り組めます。	各施設においては、地域特性も加味し、各種大会、イベントを開催したほか、指定管理者等と連携し、良質なサービスの提供を行うとともに、施設のPR事業として、パンフレットやホームページの整備を図り、交流人口の拡大に努めた。	B	各施設の利用者数等については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、まだ、令和元年度の水準まで戻っていない施設もあるが、年々増加傾向にあるためB評価としている。 「遊楽館」利用者数：R1は89,012人、R2は34,493人、R3は43,447人、R4は59,565人、R5は96,771人 「旭山」入込数：R1は33,400人、R2は4,710人、R3は4,750人、R4は5,250人、R5は5,880人 「かなんパークゴルフ場」入場者数：R1は30,439人、R2は29,658人、R3は31,267人、R4は30,555、R5は30,372人 「旭山農業体験実習館」使用者数：R1は1,199人、R2は303人、R3は658人、R4は636人、R5は733人	
②	石巻河南道路の整備については、早期の整備完了に向けて、関係機関と協力し、整備を推進します。	※国事業 石巻・新庄地域高規格道路建設促進期成同盟会において、国に対し毎年要望活動を実施。 石巻河南道路については ・令和3年4月新規事業化決定。 ・令和5年1月に設計概要等の住民説明会を実施し、石巻市も協力した。 ・令和6年8月に用地補償説明会を実施し石巻市も協力した。 ・令和7年2月に工事説明会を実施し石巻市も協力予定。 ・その他、計画立案の際には関係機関と共に協議を行っている。	B	国事業ではあるが、石巻市としては、毎年国に対し要望活動を行い、その成果もあり、令和3年に新規事業化が認められている。 令和6年度から本格的に用地買収が行われ、河南地区の一部区間において工事が実施される計画である。 石巻河南道路については、工事完成年度及び進捗率は公表されていないが、整備完了に向け進んでいることもありB評価とした。	
③	今後の人口動向を的確に把握しながら、持続可能な公共交通体系の構築や生活道路の整備を促進するとともに、市民ニーズに対応した都市機能の整備を推進します。	河南地区乗合タクシー利用者アンケートを実施し、市民ニーズを的確に把握し、利便性の向上に努めた。	C	令和6年度に実施した満足度調査において、河南地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「公共交通ネットワークの整備」及び「幹線道路・生活道路などの道路確保」の満足度が低く、重要度が高くなっており、ともに重要視されている現状があることから、C評価としている。	
④	地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化するとともに、自主防災組織の育成などを通して、安心して暮らせる環境の構築を図ります。	災害時、石巻市災害防災協会に所属する地元建設業者の排水作業や消防団員の土嚢積み工法等、関係機関との連携を強化した。 自主防災組織については、補助金の周知を活発に行い、各地区で活発な活動をしていただいた。また、令和6年度には、自主防災会・行政委員等を対象に、総合防災訓練の河南地区説明会を初めて開催した。	B	自主防災組織率は、令和元年度で66.0%だったのに対し、令和7年2月18日現在では69.8%と、概ね防災体制の整備が促進されていると判断できることから、B評価としている。（自主防災会設立数：37/53組織）	

⑤	<p>ほ場整備事業により、優良農地を確保するとともに、用水・排水施設の整備などをさらに進めながら、効率的な営農と低コスト・高品質・高生産性の農業を実現し、安定した農業経営の確立に取り組みます。</p>	<p>※県事業 「深谷西地区」と「深谷東地区」で整備を実施し、面整備、用水・排水の整備を進めている。</p>	B	<p>河南エリアにおいて、現在3地区の県営ほ場整備事業が実施中で「深谷西地区」「深谷東地区」は着工したばかりで進捗率は約3割であるが、河南エリア全体のほ場整備率は約7割となっており、安定した農業経営の確立に取り組んでいる。しかしながら、満足度・重要度が低くなっていることから、B評価としている。</p>	
⑥	<p>農業の担い手の確保や販路拡大を図り、基幹産業である農業の振興を推進します。</p>	<p>新規就農者を育成するため、農業委員会、県、農協等と連携し、相談から定着までの支援に取り組んだ。</p>	C	<p>高齢化や人口減少が進む中、農業担い手確保は重要である。地域計画策定を進めており、法人、集落営農での地域で支える営農を推進しているが、石巻市全体で新規就農は年間平均2名程度であり、満足度・重要度が低くなっていることからC評価としている。</p>	
⑦	<p>地域住民の自助・互助による健康づくりや介護予防、身近な地域における支え合いの取組を推進します。</p>	<p>住民主体によるサロン活動、生きがいデイサービス等での出前講座の依頼について積極的に支援した。 また、地域互助活動促進事業助成金の利用を勧め、地域による見守り活動や多世代間交流活動の普及に努めた。</p>	C	<p>令和6年度に実施した満足度調査において、河南地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「生活習慣予防や食育など健康づくりの取組」、「地域での見守り体制・子育て機能の充実」及び「地域包括ケア体制の推進」のいずれも満足度が低い一方、重要度は高くなっているためC評価としている。</p>	
⑧	<p>文化・スポーツ・交流施設を活用した多世代交流やコミュニティ活動を推進し、地域の活性化と伝統や文化の継承に取り組めます。</p>	<p>コミュニティ活動の一環として、河南地区住民に対し、「分館対抗パークゴルフ大会」を開催することで地域間の交流を図った。また、60歳以上を対象に「河南つくも大学」を開催し、高齢者の生涯学習の機会拡充も図った。 一方で分館行事等の参加者が少ない地区があるため、地区館運営委員及び分館長と連携し、今後も地元の声を活かした生涯スポーツ大会（パークゴルフ、ペタンク等）や学習会に取組み、今後は若年層や家族向けのイベント開催を検討する等、楽しく安全に地域活動に参加し易い環境の提供に努める。併せて周知PRにも努める。</p>	C	<p>令和6年度に実施した満足度調査において、河南地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「コミュニティ活動の充実」の満足度が低く、重要度が高くなっており、ニーズが増していることから、C評価としている。 【主な事業参加者実績】 ・分館対抗パークゴルフ：R1は100名（18/35分館）、R6は104名。（22/35分館） ・一耕塾講演会：R1は地区館毎で開催127名、R6は全体で開催220名。 ・河南つくも大学：R1は延べ285名、R6は延べ170名。 ・かなんクロスカントリー大会：R1は209名、R6は257名。</p>	

■その他（新たな施策展開について）

--

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署	桃生総合支所 地域振興課
--------	--------------

5 桃生エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	人口減少や少子高齢化に対応するため、多世代交流や地域住民同士のコミュニティ活動を推進するためのイベント開催や地域拠点施設の適正な整備に努め、地域で支え合う仕組みづくりを積極的に進めます。	「桃生ふれあい祭」を毎年9月第2週土曜日に開催、また、地区内一部町内会、各種団体等においても、各種イベント（文化祭、芸能祭等）が開催されている。また、地域自治組織であるものう夢ネットワークにおいて、植林事業「松の木を植えよう」、ハナモモの苗木事業等を展開し地域で支え合う仕組みづくりを進めている。	C	「ものうふれあい祭」の来場者数が令和元年度16,000人に対し令和6年度10,000人で減少したものの、令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「行祭事、イベントなどコミュニティ（地域自治）活動の実施」において満足度は低くなっていることからC評価としている。	
②	移住希望者の移住・定住につなげるため、情報発信や資源の有効活用を図るとともに、快適に日常生活を送れるよう生活基盤の整備や各種生活支援を推進します。	担当部において、若者や子育て世代をターゲットとした移住体験ツアーを実施している。また、地域自治組織であるものう夢ネットワークにおいて、恋活事業「もの恋」を平成27年度から開催している。	C	夢ネットワーク恋活事業「もの恋」においてペアリングとなった1組が結婚、桃生地区に定住されたものの、令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「市外からの来訪者・移住希望者の受け入れ環境の整備」において満足度が低くなっていることからC評価としている。	
③	肥よくな大地を活かしたバランスの取れた農業、競争力の高い畜産業を展開し、そこから産出される多種多様な農畜産物を活用し、耕地の有効活用や地域の活性化を図ります。	地元農業者及び関係機関等の連携により、「稲作」「畜産」「花き」等の農畜産物の安定した生産体制と地域ブランドの確立に向けて進められている。	B	桃生地区の特産物である「ガーベラ」において、出荷量が平成30年4,239千本に対し令和5年4,662千本と増加となり、また、令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「農林畜産業の振興」についての満足度が上昇していることからB評価としている。	
④	地域農業や農産物のブランド化、販路拡大を推進し、基幹産業である農業の担い手確保に努めます。	関係機関との連携及び認定農業者への「低利資金の融資」「農地利用集積」等の支援を行い、農畜産業の担い手確保に努めている。	B	桃生地区における認定農業者数が令和元年度107名に対し令和5年度現在98名で微減となったが、令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「農林畜産業の振興」についての満足度が上昇していることからB評価としている。	
⑤	地域性を踏まえた公共交通体系の構築を推進し、住民生活や経済活動の利便性向上と地域内交流などの活性化を図ります。	住民バスとして総合支所～イオンモール石巻間を平日3便運行、併せてワンコインタクシーを週3日間（月・水・金）運行している。	C	桃生地区住民バスの利用者数が令和元年度延べ4,627人に対し、令和5年度4,929人と微増となったが、令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「公共交通ネットワークの整備」において満足度が低くなっていることからC評価としている。	
⑥	三陸縦貫自動車道桃生豊里インターチェンジ、桃生津山インターチェンジの立地を活かした産業の活性化を図ります。	担当部において、産業団地適地選定調査が行われ、桃生豊里ICからの近接性を踏まえた4か所のエリアを「条件付き適地候補地」として選定された。	C	担当部において、調査実施後の今後においての具体的な取組が不鮮明であることからC評価としている。	

⑦	地域住民の自助・互助による健康づくりや介護予防、身近な地域における支え合いの取組を推進します。	ダンベルクラブによる週1回の健康体操や保健推進員と作成したウォーキングマップを利用し、地域住民の健康づくりや包括支援センターと介護予防教室を開催し、地域住民の健康増進の普及を図っている。 市民満足度調査で低くなっている「地域での見守り体制・子育て機能の充実」においては、各関係機関、民生委員児童委員等と課題・解決に向けた情報共有や連携を図りながら、地域の見守り体制を構築している。 子育て機能については、保護者が就労しやすいように、保育所、放課後児童クラブを開設しているほか、子育て支援センターにおいては、子育て中の家族の相談やボランティア団体によるイベント等を開催しているほか、年3日間土曜日の開設を実施し、子育て家族の支援に努めている。	B	令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「地域での見守り体制・子育て機能の充実」において満足度は低くなっているが、地域のボランティア団体や関係機関と情報共有、連携をとり、イベントを通して、地域の見守り体制等を構築するよう取り組んでいる。子育て支援のボランティアによるイベントでは参加者数もコロナ禍以前の令和元年度は184人であったが、R2:63人、R3:83人、R4:82人、R5:114人、R6:126人とR1の人数まで到達していないものの、年々増加傾向の状況である。子育て支援センターでは、令和6年度に土曜日開設を年3回設け、52人の親子の利用があった。また、「地域包括ケア体制の推進」においては満足度が上昇していることからB評価としている。	
⑧	「はねこ踊り」や各地区の「法印神楽」などの伝統芸能により地域活動を活性化するとともに、交流人口を拡大し、住民のコミュニケーションの場の創出と地域間交流の充実を図り、地域コミュニティの活性化や伝統文化の後継者育成や史跡などの活用を図ります。	「はねこ踊り」については「桃生ふれあい祭」において踊られており、また、昨年度より総合支所敷地内において、地元出身者有志により、「交流人口・関係人口の増加による地域活性化を図ることを目的」としたイベントが開催され、その中で「寺崎の法印神楽」が披露されている。	C	令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「行祭事、イベントなどコミュニティ（地域自治）活動の実施」及び「地域の文化・伝統芸能の継承」とともに満足度が低くなっていることからC評価としている。	
⑨	地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備や排水対策、自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに総合防災対策の充実を図ります。	避難所（桃生総合センター）備品の整備、市総合防災訓練での自主防災組織への自主訓練実施の広報を行い地域防災力向上を図った	C	桃生地区における自主防災組織数は25組織で組織率53.8%となり市全体の組織率59.9%より低く、また、令和6年度に実施した市民満足度調査において、桃生地区の回答を前回調査（令和元年度）と比較すると、「地震や水害等に対する防災対策の充実」及び「防災訓練の実施や防災知識の普及など地域防災力の向上」とともに満足度が低くなっていることからC評価としている。	施策展開の方向性内、「防災施設の整備や排水対策、」削除

■その他（新たな施策展開について）

「桃生スポーツ施設」、「桃生植立山公園」などのスポーツ施設の利活用促進を図り、スポーツ活動の推進や交流活動を通じた関係人口の拡大及び住民の健康の保持増進を図ります。

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署

北上総合支所 地域振興課

6 北上エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	豊かな地域資源の魅力を発信し、交流人口の拡大や移住・定住の促進を図るとともに、多世代交流の機会を増やし、若者がコミュニティの輪に入る取組を行なうことなどにより、地域コミュニティの活性化を推進します。	・北上にっこりまつり事業等において、豊かな地域資源の魅力を発信や交流人口の拡大、多世代交流の機会の増進に努めた。	A	・行催事やイベントについて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、震災後に再開し、交流人口の拡大や多世代交流の実現など一定の成果が得られたことからA評価としている。	
②	地区に居住している住民が快適に日常生活を送れるよう生活基盤の整備を推進し、安全安心に居住できる地域社会の構築を推進します。	・国道398号線における地域からの要望に対し、宮城県に要望活動を行っているほか、総合支所安全対策費を活用しインフラ整備に務めた。	A	・令和6年度に実施した満足度調査においても数値が高く評価されていることから一定の成果が得られたと判断しA評価としている。	
③	安定した地域医療体制を維持するとともに、地域の医療ニーズに対し柔軟に対応できる仕組みの構築や共に支え合う仕組みづくりを推進します。	・橋浦診療所が地域医療を支えている。北上総合支所、地域包括支援センターや民生委員とも情報を共有しながら、保健・医療・福祉・介護の関係機関と連携を図っている。	A	・令和6年度に実施した満足度調査においても数値が高く評価されていることから、一定の成果が得られたと判断しA評価とした。	・「柔軟に対応できる仕組みの構築や」の後に「医療・保険・介護・福祉と連携を図り」を追加。
④	住民の利便性向上や定住促進を図るため、市内他地区へのアクセスがしやすく、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。	・住民バス停留所について、住民のニーズを反映した設置に努めた。	B	・定住促進には寄与しないものの、地域のニーズを踏まえた地域公共交通体系を形成したことからB評価としている。	・「住民の利便性向上や定住促進を図るため」の部分を「住民の利便性向上を図るため」に修正
⑤	ほ場整備事業や水産基盤整備事業などにより農林水産業の産業基盤を確立し、生産環境の改善と経営体の育成を図るとともに、生産性の高度化と生産品の高付加価値化などを図ります。	・本庁担当部署と協力し農林水産業の産業基盤の確立や生産環境の改善に努めた。	A	・令和6年度に実施した満足度調査においても数値が高く評価されていることから一定の成果が得られたと判断しA評価としている。	
⑥	非可住地域について、土地の有効活用を図るために、農業用地などによる利活用を推進し、地域の活性化に努めます。	・令和4年度に北上地区多目的広場やパークゴルフ場を供用開始し地域の活性化に務めた。	A	・令和6年度に実施した満足度調査においても数値が高く評価されていることから一定の成果が得られたと判断しA評価としている。	
⑦	全国的に有名な北上川の「ヨシ原」や「神割崎」などの観光資源と豊富な農林水産物などを活用して地域産業の確立を図るとともに、写真セミナー「太平洋写真学校」など自然を題材としたイベントを企画することで都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。	・写真セミナー「太平洋写真学校」など自然を題材としたイベントを実施し都市住民との交流や豊かな自然環境の活用の促進に努めた。	B	・令和6年度についても継続的に自然を題材としたイベントを企画している。豊富な農林水産物などを活用した産業の確立については課題も多く未達成であることから、総合的に判断しB評価としている。	

⑧	持続的に自然資源を活用できるよう、有害鳥獣対策や自然環境の保全活動などを推進します。	・有害鳥獣対策として、鹿防除柵の設置支援や地元猟友会を活用した有害鳥獣駆除に努めている。	B	・有害鳥獣対策を実施しているものの、獣害については法的に自然災害であることから住民による自助、地域による共助、行政による公助がそれぞれ獣害対策の主体となる。地域としての課題も多々あることから、B評価としている。	
⑨	「女川法印神楽」や「大室南部神楽」などの伝統芸能を地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。	・北上文化協会所属3団体を対象として、北上公民館独自事業である「伝統芸能支援事業」を実施し、伝統芸能の存続に努めている。	A	<p>・伝統芸能支援事業は公民館施設の無償貸館及び団体活動支援が主な事業内容となっており、令和6年度(4月～1月)の実績は、十三浜甚句保存会が27回207人、女川法印神楽保存会が27回244人、木曜会が15回111人の合計69回562人であり、伝統芸能の存続に対して一定程度の支援ができた状況であることから、A評価としている。</p> <p>【比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5 <ul style="list-style-type: none"> 十三浜甚句保存会 16回102人 女川法印神楽保存会 3回9人 木曜会 8回56人 合計 27回167名 ・R6(R7.3.13現在) <ul style="list-style-type: none"> 十三浜甚句保存会 34回254人(対前年度+18回152人) 女川法印神楽保存会 27回244人(対前年度+24回235人) 木曜会 18回132人(対前年度+10回76人) 合計 79回 630名(対前年度+52回463人) 	

■その他(新たな施策展開について)

--

総合計画 エリア別将来展望に係る評価シート

記入担当部署	牡鹿総合支所 地域振興課
--------	--------------

7 牡鹿エリア

■施策展開の方向について

No	施策展開の方向性	これまでの主な取組	達成度	評価理由	修正箇所
①	住民主体で開催するコミュニティ活動や地域イベントの開催、地域で継承される文化活動などを支援し、地域コミュニティの継続を維持します。	行政区・自治会に対し、市の支援制度の周知を行い、各種支援制度の実施にあたり、手続きや実施についてサポートを行った。また、鯨まつりにおいて、補助金や人的支援を実施した他、各種イベントにおいても実施のサポートを行った。	C	地域互助活動促進事業助成金について自治会での活用を勧めたが、実施は1団体に留まった。鯨祭りでは、来場者数が、令和元年度の8,000人から、令和5年度12,000人、令和6年度10,000人と伸びているものの、令和6年度に実施した市民満足度調査では、前回調査より満足度が低下していることからC評価とした。	
②	住民の利便性向上や定住促進を図るため、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。	市民バスについて、住民のニーズ、実情を踏まえ、ダイヤ改正や増便を実施し、通学者の利便性を確保した。	C	地域の事情に合わせダイヤ改正等、柔軟に対応しているものの、市民満足度調査においては前回調査よりも満足度の低下が見られることからC評価とした。	
③	移住希望者の移住・定住につなげるため、情報発信や資源の有効活用を図るとともに、地区に居住している住民や移住者が快適に日常生活を送れるよう生活基盤の整備を推進し、安全安心に居住できる地域社会の構築を推進します。	市が管理する道路・河川・下水道について、適正な維持管理を実施するとともに、離島においては、ガス供給事業者の後継事業者が見つからない等により、ガス供給に不安を抱えていたことから、住民のみならず、移住の妨げとなっていたが、民間事業者と調整をし、安定的なライフラインを確保した。	B	必要とされる整備等は随時実施しており、令和6年度に実施した市民満足度調査において、前回調査よりも満足度の上昇、重要度が低下していることから、概ね市民の満足度は上昇傾向にあり、問題とする意識については低下していると判断されB評価とした。	
④	観光資源と豊富な水産物などを活用して地域産業の確立を図るとともに、三陸復興国立公園の立地を活かしたエコツーリズムによる都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。	環境省や関係団体で組織する牡鹿半島ビジターセンターの構成団体として、市が事業費に係る負担金を拠出しており、自然体験活動やワークショップを実施している。	B	令和6年度に実施した自然環境・観光に関する満足度調査については、前回調査よりも満足度が低下しているが、ビジターセンター利用者へのアンケート調査では、90%がとても満足、10%がやや満足としている。また、牡鹿地区全体の観光客入込数では、前回調査時点の令和元年度124千人から令和5年度423千人と4倍近くに増加していることから、B評価とした。	
⑤	離島における海上輸送交通を確保するため、金華山定期航路の就航など、より利便性の高い航路運航の確立に努めます。	金華山の定期航路の増便に向け検討を重ね、令和7年度から支援事業として実施することが決定した	B	定期便の増便支援により、金華山への渡島者の増加が見込まれることからBとした。	「離島における海上輸送交通を確保するため」を削除。離島航路と観光航路が混在しているため。
⑥	単身高齢者の社会的孤立の解消を目指すとともに、高齢者が安心安全に暮らせるよう、保健・福祉におけるソフト事業の充実を推進します。	全市として、一人暮らし老人等緊急通報システム事業等を継続し、また、牡鹿地区共生型地域包括ケアサービス事業、網地島では生きがいデイサービスや買物支援対策事業を実施している。	C	令和6年度に実施した満足度調査において、牡鹿地区の回答を前回調査と比較すると「高齢者への福祉サービスの質の向上」についての満足度が低下していることからC評価としている。	
⑦	沿岸海域に広がる豊かな漁場を活用し、地場産品の地域ブランドの確立を行い、地域の基幹産業である水産物の振興を推進します。	※金華ものブランド化委員会として金華さば、金華かつお、金華ぎんとしてブランド化していますが、市の取組として実施しているものはない。	D	事業の検討を行っていないことからD評価とした。	

⑧	漁業者の経営安定化に向け、販路開拓、稚魚など放流事業を推進するとともに、後継者育成や新たな養殖事業の展開を推進します。	さけの放流事業に取り組んでいるが、さけの遡上数の減少により目標とする放流数を実施できなかった。	C	さけの放流尾数の目標値は200万尾であるが、近年は、さけの遡上数が極点に低下し、種卵が確保できず、他所からの移入卵に頼っているが、購入できる移入卵には制限がある。放流尾数は、令和元年度10万尾、令和2年度9.9万尾、令和3年度2.7万尾、令和4年度62.4万尾、令和5年度28.4万尾といずれも大きく下回っている。また、令和6年度は移入卵が確保できず、放流は実施できなかった。事業として実施する体制は整えているものの目標を達成できないことからC評価とした。	
⑨	捕鯨文化を継承し、鯨食文化の振興を図ることにより、鯨肉に対する需要を高める取組を推進します。	ホエールランドにおける捕鯨や捕鯨文化の展示の他、鯨祭りにおける鯨焼肉の無償配布等、鯨食文化の継承に努めた。	C	捕鯨文化の継承や、鯨食普及について努めているが、鯨の捕獲頭数が捕獲割当の5割から7割程度に留まっており、市が取組べき鯨食普及事業の必要量が確保できないことからC評価とした。	

■その他（新たな施策展開について）

--